

当科での新しいとりくみ

病院を知ろう —耳鼻咽喉科頭頸部外科について—

平成29年7月14日

富山市民病院耳鼻咽喉科頭頸部外科

辻 亮

①経外耳道的内視鏡下耳下手術(TEES)

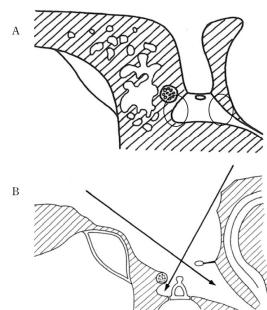
②神経モニタリング装置を使った頭頸部手術

③頭頸部癌に対する強度変調放射線治療
(IMRT)

経外耳道的内視鏡下耳科手術(TEES)

【顕微鏡下手術とTEESにおける視野】

顕微鏡



内視鏡



後鼓室や前鼓室が顕微鏡
下手術では死角となりやす
く、広範な骨削開が必要

斜視鏡の使用により後
鼓室や前鼓室が明視下

手術の様子

顕微鏡下手術



TEES



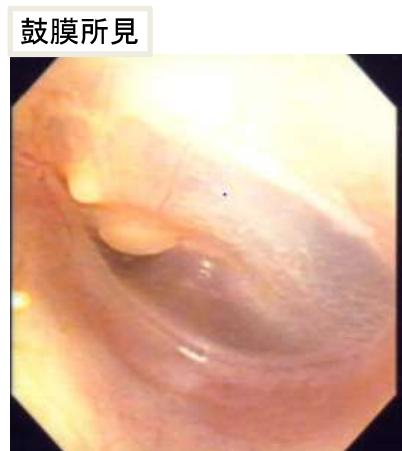
TEES症例 3歳男児

【主訴】左耳痛

【既往歴】特記事項なし

【身体所見】

鼓膜前上象限に白色病変透見
明らかな鼓膜穿孔なし



NIMシステム3.0

電極を神経支配筋に刺入し、筋電図と音で認識・感知する装置で、神経プローブでの刺激だけでなく、手術操作による神経への物理的刺激によっても音を発するため、神経損傷の回避に役立つ。近年普及してきた表面電極付挿チューブを用いれば声帯筋の筋活動をとらえられる。

頭頸部外科における神経モニタリング

- 頭頸部領域の手術は、多くの脳神経が術野に現れ、できる限り温存することが求められる。唾液腺および甲状腺手術においても、神経モニタリングを簡便に実施できる機器の出現と**手術医療機器加算**への新規収載とともに、神経モニタリングが用いられる機会が増えている。

耳下腺手術における顔面神経モニター



針電極の固定
①眉毛、②口角、③前胸部

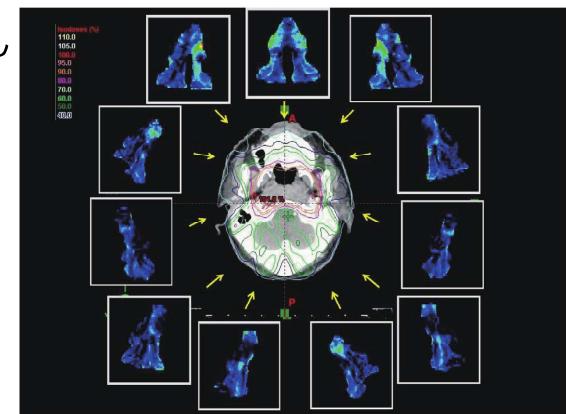
強度変調放射線治療(IMRT)

定義：逆方向治療計画(インバースプラン)に基づき、空間的、時間的に不均一な放射線強度を持つ照射ビームを多方向から照射することにより、病巣部に最適な線量分布を得る放射線治療法

歴史：2006年に先進医療として主に頭頸部癌と前立腺がんに対して行われ始めた。2008年にはこの2疾患に加え、中枢神経腫瘍で保険収載となり、2010年に限局性の全固体悪性腫瘍が保険適応

強度変調放射線治療(IMRT)

例)上咽頭がん

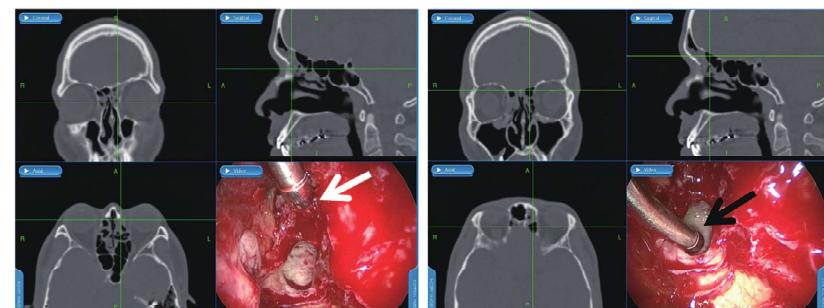


各方向からの照射野に線量の強弱をつけ、それを合算することで任意の線量分布を作成することが可能となる。高線量域(ピンク~赤線)を脳幹を避けるように内側に凹ませている

ナビゲーションを使った鼻手術



ナビゲーションと内視鏡画像



ダヴィンチサーボカルシステム

まとめ

当科の新しいとりくみについて紹介した

耳や頭頸部腫瘍の手術、また頭頸部悪性腫瘍の放射線治療を積極的に行っている



(日耳鼻 117: 887–892, 2014)